

## 総合文化学科

学科長

入 江 識 元

IRIE Nobumoto

### (1) 総合文化学科/国際教育研究センター主催、 神戸日豪協会後援第5回 Australia Day

11月4日(土)にラーニングコモンズにて開催された文学部総合文化学科/国際教育研究センター主催、神戸日豪協会後援の第5回 Australia Day は、本学科1年次基礎演習の全学生と担当教員によって運営された。

当日は三部構成にて実施し、午前の第一部ではポスターセッションと講演会、午後は第二部にシドニー大学日本語インターン実習報告会、第三部に留学生日本語スピーチの会を行った。第一部のポスターセッションでは、各班が長期間かけて作成したポスターを前に、来場の方々に学生がその内容の説明を行った。その後、会場の全員が審査に参加し、その結果、最優秀賞、優秀賞、奨励賞がそれぞれ選ばれた。

講演会では、シドニー出身の兵庫県国際交流員カイ・ナガラ・シムズ氏を招き、「オーストラリアの教育制度と多文化の影響」というタイトルで講演をいただいた。オーストラリア人と日本人のハーフであるカイ・シムズ氏は、幼少時より二重言語で生活し、その自身の体験をもとに日本語習得の動機、オーストラリアの教育システムなどを、流ちょうな日本語で巧みなジョークを交えながらわかりやすく説明され、たいへん興味深い講演となった。なお、講演会の後、カイ・シムズ氏よりポスターセッションの講評をいただき、オーストラリアのことをよく調べているとお褒めの言葉をいただいた。

シドニー日本語インターン実習報告会では6名の学生が報告を行った。全員それぞれがパワーポイントの資料を前に報告を行い、「文法授業」「文化紹介授業」「文化交流授業」の3つのポイントから実習を行ったことについて詳細に説明すると

ともに、日本語を外国語として教えることの難しさを実感していた。

第三部の留学生日本語スピーチの会は例年にない発表者数となり、本学に在学の留学生14名がスピーチを行い、見た目にも賑やかなイベントとなった。日本に来て間もない学生が日本語を用いて辿々しいながらも一生懸命に、これまでの留学で気づいたことなどを熱心に語っている姿が印象的であった。

### (2) 総合文化学科/国際教育研究センター主催 講演会

11月15日(水)第2限に、3号館1階311教室にて開催された文学部総合文化学科/国際教育研究センター主催の講演会は、学生や本学教職員の方々など50名余の方々に参加いただいた。

講演会には、講師にオーストラリアシドニー大学准教授で本学客員教授の安本成子氏を招き、「日本・東アジアにおけるクロスカルチャー・エンゲージメントとメディアの融合」のタイトルで講演いただいた。講演では、近年のメディア規制の変化とアジア圏を中心とした文化の再エンゲージメントとメディアの融合が加速していることを導入に、「リメイク」をキーワードに論を展開された。メディア規制については韓国の事例をもとにその問題点が挙げられ、日本メディアに対し韓国や中国の規制が強化されていた20世紀末以降、徐々に規制が緩和されたため、近年では番組だけでなくストーリー、アイデアまでが売れる時代となってきたこと、そのソフトパワーの競争市場において、日本はあらゆる意味において成功したとは言えないことが指摘された。そして、日本のコンテンツがアニメ以外にも豊富なものがあるにも拘わらずその輸出が頭打ちとなっている原因が、

日本メディアの内向きな作品作りにあり、それに対し韓国は、ドラマー辺倒の輸出にも拘わらず、リメイクに対する柔軟な姿勢によって、オーディエンスにとって意味のあるコンテンツに作り替えることに成功しているのだと説明された。そして、これからの日本がその豊富なソフトパワーを活かすためには、コストを抑えながらグローカライズされたリメイクに柔軟なスタンスをとることでコンテンツの自由な流れを創ることが競争に勝つコツであると結論づけられた。「JIN-仁-」や「フレンズ」など日本ドラマの映像を交えた安本先生の軽快なトークで、時折笑いが起こるなど、たいへんフレンドリーな講演であった。